

すいたGRE・ENプロジェクト いじめ予防推進事業

TRIPLE-CHANGE

令和2年（2020年）4月21日 吹田市立教育センター発行 第2号

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定していた第1回と第2回のリーダー研修はWebでの実施となりました。集合して和久田先生の熱い講義を受け、リーダー同士で交流しながら学ぶことはできなくなりましたが、それでもWebアップされている動画はボリューム満点で、いじめ防止に向けた学校の取り組みに活かせるものが満載でした。

リーダーの皆さんにはしっかり内容を咀嚼し、自校状況に合わせた校内研修を実施していただければと思います。また、リーダー以外の教職員の皆さまも、各自、校内研修の予習復習として動画を視聴していただくことは大歓迎です。

今回は、その動画を視聴した教育センター職員の感想を掲載しますので、ご一読ください。

「いじめ問題は大人（教師）の問題とも言える」

和久田先生のこの言葉は第2回の研修前半と最後に出てきます。それまでの研修内容も自分の今までの教師生活を反省しながら視聴していたので、この言葉は心に刺さりました……。その根拠の一つとして挙げられた「生存バイアス」。いじめで本当に深刻な傷を負った人が教師の中にどれだけいるでしょう。教師の多くは、傍観者という立場も含めて何らかの形でいじめを経験しながら、心身の健康や社会適応に深刻な問題を抱えずに生き抜いてきた、言わば「生存者」。だから、教師が経験則だけでいじめ問題を考えると、偏り（バイアス）が生じやすくなり、いじめが深刻化する危険があるというのです。そこで拠り所となるのが科学的エビデンス。まずは、子供たちのモデルとなる教師が科学的エビデンスに基づいた正しい知識と具体的な行動を身に付けて変わらなければなりません。いじめに苦しむ子供を今後生まないために、是非、この充実した動画をリーダーはもちろん、リーダー以外の先生方も積極的に視聴いただき、学校再開後の校内研修を充実させてください！

所長代理 福井 将人

和久田先生は冒頭で、学校現場は、学校や子供の状態が多様であり、そこで起こる様々ないじめ事象にも対応できるベースの考え方を提供したいとおっしゃっています。先生の言葉を借りれば、「どの先生もこの線はおさえようね」という知見です。このプログラムには、そのための具体的な方策がふんだんに盛り込まれています。

一方で、このプログラムで示されている子供の行動への支援や発達の問題に対する方法は、いじめ事象への対応に限定されるものではないとも感じました。子供の行動や発言で見逃してはいけないポイント、さらに子供同士の関係性をどのような視点で見取っていけばよいのかも学ぶことができます。そのため、若手の先生だけでなく、若手の指導にあたるミドルリーダーの先生方、学校を支えているベテランの先生方にとっても、学びの多いプログラムであるといえます。これまでの経験を科学的な視点から再構成してくれるはずです。そして、私たちが抱える課題を解決するための最適解を導き出してくれると信じています！

主幹 三井 真吾